

< 編集後記 >

インターネットや情報システムの登場と普及によって、さまざまな活動が大きく変化しつつあります。本号の記事においても、スパコンからペタコンへ、論文は紙媒体から電子媒体へ、教育用の端末システムは基盤システムへ、そして、独立した情報システムは統合認証へ、といった情報システムの高度化に伴う変化があらわれています。

急速に変わりつつある情報環境に対応して、ユーザも対応しつづけてはなりません。例えば、ほんの少し前までは「電子メールを読まずに」仕事をすることもできました。しかし、今では、仕事には欠かせないツールになっているのではないでしょうか？ 論文も、紙媒体よりも、電子媒体で見るが多くなりました。ちょっとした調べ物も図書館に行かずに、インターネットで検索するだけでできてしまいます。

一方では、ウィルスやSPAMメール、サーバクラッキングといった、インターネットならではの危険も増大しています。10年前には存在しなかった多数の問題が情報システムの高度化によって発生している、と言っても良いかもしれません。情報システムのために、なんだか以前よりも忙しくなった、と思っている方も多いと思います。私は、現在の状況はあくまでも「過渡期」である、と思います。技術の急速な進歩によって、利便性の向上や個人の能力の拡大と共に、セキュリティ等の危険性や管理の難しさが増大しています。

しかし、これらだって、同じように技術によって克服が可能でしょう。本号で紹介している「SecureNICE」も、NICE内からインターネットを安全に、快適に利用するための一つのサービスです。

このように、一つ一つ、問題を丁寧に克服することによって、本当の意味での利便性が高い情報システムを実現し、「ゆとり」を生み出すことができるのでは、と信じています。

(N.K.)